

# ＝報告書＝



## 平成 28 年度-平成 29 年度 生活支援体制整備事業

### 目次

1	経過	1
2	実践内容	2
	平成 28 年度	2
	平成 29 年度	3
	認知症声かけ訓練	4
3	ふりかえりと今後	10

いきいきプラン山前

## 1 経過

平成 28 年度、高齢者等に対する日常生活上の支援体制の充実及び強化を図るため、真岡市から社会福祉協議会が生活支援体制整備事業を受託し、日常生活圏域協議体（第 2 層協議体）のモデル地区として山前地区が選定された。

また、社会福祉協議会では、生活支援コーディネーター1 名を配置し、日常生活圏域協議体の運営、決定事項の実現に向けた取組を実施した。

### 協議体の構成

組織等	人数
山前地区区長会	4 人
山前地区民生委員児童委員協議会	4 人
真岡地地域福祉推進員	2 人
山前地区老人クラブ連合会	1 人
小林駐在所	1 人
山前分館	1 人
山前小学校	1 人
真岡市地域包括支援センター	1 人
グループホームふれんど真岡	1 人
田井の里クリニック	1 人
はが野農業協同組合福祉センター	1 人
真岡市社会福祉協議会	1 人

## 2 実践内容

### (1) 平成 28 年度

#### ①会議

月日・場所	内 容
5月27日 第1回会議 17名出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員長、副委員長を選出した。</li> <li>・高齢者を取り巻く現状及び生活支援体制整備事業について事務局から説明した。</li> <li>・山前地区の現状及び協議体の推進スケジュールを決定した。</li> <li>・協議体の名称を「いきいきプラン山前」に決定した。</li> <li>・アンケート調査項目を決定した。</li> </ul>
8月19日 山前分館 第2回会議 19名出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例発表「在宅で介護すること」 コーディネーター 国際医療福祉大学 林准教授</li> <li>・グループワーク「作ってみよう！地域活動」</li> </ul>
11月28日 山前分館 第3回会議 17名出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の山前地区の取組について 訪問員等による訪問型の見守りとふれあい・いきいきサロン等を利用した集合型の見守りにより、地区内の見守りを推進することに決定した。</li> <li>・見守り実践事例紹介</li> <li>・活動の周知について チラシ※図1を作成し、全世帯に配布することに決定した。</li> </ul>
1月25日 山前分館 第4回会議 16名出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山前地区字別介護認定率、二次予防事業対象者把握事業について、地域包括支援センターからの報告があった。</li> <li>・見守り活動推進のためのハンドブックの作成とその内容を決定した。</li> <li>・学校、事業所との連携について 具体的連携については、継続協議することに決定した。</li> </ul>



※図 1

(2) 平成 29 年度

①会議

月日・場所	内 容
6 月 19 日 公民館 研修会兼 第 1 回会議 48 名出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 28 年度いきいきプラン山前の取組</li> <li>講義と演習：私ができることは“なに” 講師：NPO 法人メイアイヘルプユー 葭田 美知子 氏</li> <li>委員長、副委員長を選出した。</li> <li>山前地区内区長、民生委員・児童委員、介護サービス事業所、小中学校を対象にアンケート調査の実施を決定した。</li> </ul>
7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査の実施</li> </ul>
9 月 14 日 山前分館 第 2 回会議 14 名出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート集計結果報告</li> <li>アンケートを基にグループワークを実施 認知症に対する理解促進や多世代交流の機会の増加等が必要との提案があった。</li> </ul>
12 月 1 日 山前分館 第 3 回会議 14 名出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護サービス事業所との連携について、事業所見学や地域への介護・認知症の講師派遣等を事業所に協力していただくこと、このことについてチラシを作成し、地区内に回覧することを決定した。</li> <li>認知症に対する理解促進のため、平成 30 年 3 月 11 日に認知症声かけ訓練を実施することを決定した。</li> </ul>
1 月 30 日 山前分館 第 4 回会議 17 名出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症声かけ訓練について、具体的内容やスタッフの役割分担等を決定した。また、周知のため社協広報紙への掲載のほか、チラシを回覧することを決定した。※図 2 ※事業の詳細は、次頁</li> <li>次期委員として、山前地区内のすべての介護サービス事業所、小中学校、駐在所、郵便局を新たに加えることを決定した。</li> </ul>



※図 2

## ②認知症声かけ訓練

平成30年3月11日（日）

9:30-15:00

山前分館及び周辺

参加者46人、オブザーバー2人  
介護サービス事業所等13人、ボランティア9人、いきいきプラン山前委員16人、スタッフ14人 合計100人



### ■趣旨

認知症についての理解と意識を高め、認知症になっても住み慣れた地域で暮らすことができるよう支え合いの地域を作ることなどを目的として、認知症についての講演と改善センター周辺を利用した実地訓練を行う。参加者同士話し合いながら、「認知症」と「認知症の人」について、理解を深める。

### ■スケジュール

- 09:30 開会
- 09:40 説明  
真岡市徘徊高齢者QRコード利用事業について
- 09:55 基調講演  
特定非営利活動法人  
風の詩  
代表 永島 徹 氏
- 10:25 休憩
- 10:35 認知症声かけ訓練の実施方法の説明
- 10:40 訓練開始  
  
昼食休憩、介護サービス事業所等紹介ブースの見学
- 13:30 ふりかえりとまとめ
- 15:00 閉会



□真岡市徘徊高齢者QRコード利用事業について

徘徊する高齢者が外出し、行方不明となったときや警察等の関係機関で保護されたときに早期に身元が判明できるように真岡市が実施している事業。

今回の訓練でも、認知症役の方にQRコードを身に着けていただき、読み取りから連絡までの演習を実施した。



警察に認知症の家族が行方不明になったことを連絡する家族役  
(写真左)

家族役からの連絡を受け  
ける小林駐在所職員  
(写真右)



□基調講演：誰もが安心して暮らせる地域であるために

NPO法人風の詩の永島代表による講演。ポイントは、「認知症」と「人」を区別して捉えること。そして、家族等の介護者の心境にも配慮し、尊厳を大切にしたい対応が必要と講演された。

基本姿勢として「驚かせない」、「急がせない」、「自尊心を傷つけない」、対応方法としては、まずは見守り、余裕を持って対応する等、具体的なポイントをご教示いただいた。

□声かけ訓練

声かけ訓練は、家族役が警察に行方不明者の連絡をするところからスタート。その後、家族役から区長に捜索を依頼し、区長からの依頼により住民役（参加者）が捜索にあたった。

46名の住民役は、9グループに分かれ、約1.6kmのルートに配置した3人の認知症の方を捜索し、QRコードの読取や警察への連絡を行った。

認知症役は、この事業に関心のある市民や介護サービス事業所の職員9人のボランティアが担った。



写真 上段：QRコード利用方法の説明  
中段：家族役からの連絡  
下段：捜索に向かう住民役



①



④



②



⑤



③



⑥

写真 ①～⑤：認知症役への声かけ  
⑥：QRコード利用



## □ふりかえりとまとめ

検索後は、個別ワークシートを利用し、各自が体験をふりかえり、グループワークで共有を図った。

グループワークでは、率直な感想、良かったこと、課題と思ったことをそれぞれ意見交換し、その後、認知症役のボランティアからのフィードバックを行った。

認知症役からは、「矢継ぎ早の質問に圧倒された。」、「大勢に囲まれてしまった。」、「にこやかにゆっくり話しかけると安心できた。」等の意見が出た。

参加者は、認知症役のフィードバックを受け、より良い山前地区にするために自分たちに何ができるかを話合った。

参加者からは、「認知症について、もっと知り、適切に対応したい。」等のほか、「地域の日常的な付き合いが大切。」等の意見が出た。その他、経験談や質問があり、それぞれ永島氏に助言いただき終了となった。



写真 上段：個別ワーク  
中段：グループ内共有  
下段：発表

## ちょっと一息

山前地区内の事業所に協力いただき、事業所紹介ブースを展開した。参加者は、昼食時間等を利用し、各ブースを見学。また、事業所同士の交流の機会にもなった。

## □協力事業所

地域密着型特別養護老人施設田井の里  
よしむら整骨院のデイサービス  
デイサービスセンターすこやか山前  
デイサービスひだまり  
グループホームふれんど真岡  
真岡郵便局  
真岡西田井郵便局  
芳賀山前郵便局

□アンケート結果

調査対象 46 件 回答数 38 件（回答率 83%）

□構成

	全体	10代	20代	50代	60代	70代	80代
男	17	0	1	0	7	8	1
女	20	1	0	5	12	2	0
無回答	1	0	0	0	1	0	0
合計	38	1	1	5	20	10	1

□認知症の方との関わり（複数回答可）

	全体	10代	20代	50代	60代	70代	80代
自分が認知症である	2	0	0	0	1	1	0
家族に認知症の方がいる（いた）	11	0	0	2	7	2	0
知り合いに認知症の方がいる（いた）	15	0	0	2	9	3	1
仕事やボランティア活動で関わりがある（あった）	12	1	1	2	4	4	0
その他	1	0	0	0	0	1	0
関わりが無い	3	0	0	0	3	0	0
無回答	2	0	0	1	0	1	0
合計	46	1	1	7	24	12	1

問1 本日の研修に参加して良かったですか。

	全体	10代	20代	50代	60代	70代	80代
大変良かった	26	1	1	5	14	5	0
良かった	12	0	0	0	6	5	1
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	0	0	0	0	0	0
合計	38	1	1	5	20	10	1

問2 本日の研修内容は理解できましたか。

	全体	10代	20代	50代	60代	70代	80代
大変理解できた	11	0	0	1	8	2	0
理解できた	23	1	1	3	11	7	0
あまり理解できなかった	2	0	0	0	0	1	1
理解できなかった	0	0	0	0	0	0	0
無回答	2	0	0	1	1	0	0
合計	38	1	1	5	20	10	1

問3 認知症になっても暮らしやすい地域をつくるために自分自身取り組みたいと思うことがあればご記入ください。

- ・ 地域のことを知り、地域の人と知り合う
- ・ 隣近所の人達と良い関係を作る
- ・ 地域の人たちとの情報交換、連携をとる
- ・ 多くの人が集える場を作れたら認知症への理解が深まる
- ・ これからもいきいきサロンを続けたい など

問4 地域の人と一緒に取り組みたいと思うことがあればご記入ください。

- ・ おしゃべりできる場を作りたい
- ・ 自助、共助の精神を高めていきたい
- ・ 回覧板は必ず手渡す
- ・ 家族の苦労を分かち合えるようなサロンがあると良い
- ・ いきいきサロンの内容を検討して楽しいサロンをめざす など

問5 山前地区に「こんな取組があったらいいな。」と思うことがあればご記入ください。

- ・ 認知症になる前に気をつけることを勉強する
- ・ 限られた人ではなく、広く情報が伝わる場を設けてほしい
- ・ もっと研修を増やしてほしい など

問6 「いきいきプラン山前」を知っていましたか。

	全体	10代	20代	50代	60代	70代	80代
良く知っている	9	0	0	0	7	2	0
聞いたことはあるが内容までは知らなかった	12	0	1	3	5	3	0
全く知らなかった	5	1	0	1	2	1	0
無回答	12	0	0	1	6	4	1
合 計	38	1	1	5	20	10	1

問7 本日の研修やいきいきプラン山前に対し、ご意見があればご記入ください。

- ・ ひきこもり者などの対応も必要と思う
- ・ 素晴らしい情報の発信になったと思う
- ・ 行方不明者の放送を注意深く聞く必要があると思った
- ・ この活動を広く住民に伝えてほしいと思う
- ・ 人と人が繋がる研修が多くあれば、生活に張り合いができる など

### 3 ふりかえりと今後

#### (1) 成果

##### ①見守り活動の進展

元々、市の事業である「地域福祉づくり推進事業」、「地域共助活動推進事業」を実施している区が3区、独自に見守りを実施している区が1区、合計4区が見守りを実施していたが、平成29年度、新たに3区が見守りのための準備を進めている。西田井区は、区長、民生委員・児童委員、地域福祉推進員が主体となり、対象者のマッピングを実施。現在は、主体のメンバーが、不定期に状況をさりげなく確認する活動を行い、月1回程度の情報交換会を実施し、見守り体制の整備を図っている。根本区は、区長が対象者のリストアップを実施し、平成30年度から具体的な見守り方法について協議を進めていく。東沼区は、平成30年度から、町会を単位とした見守り活動を想定し、区長、町会長、民生委員・児童委員、地域福祉推進員等により協議を進めることになっている。

##### ②介護サービス事業所等と地域の連携（期待）

山前地区内5か所の介護サービス事業所すべてが、事業所見学や地域の勉強会への講師派遣等に協力いただけることになった。このことについては、平成30年2月に山前地区内に回覧したところで、まだ実績はあがってきてはいないが、認知症をはじめとした高齢者福祉の理解促進、また、事業所と地域の関係構築のきっかけといった点で、期待できるところである。

#### (2) 課題

##### ①いきいきプラン山前の周知

2年間、山前地区がモデルになり、事業を実施してきたが、一般的に認知度は低く、まだまだ周知活動を行う必要がある。

##### ②委員改選

選出母体の会員や役員の改選にいきいきプラン山前の構成も影響を受ける。時期によっては、地縁組織から選出されている委員の半数以上が変わってしまうことがある。

##### ③会議回数

選出母体自体の業務が多忙の中、いきいきプラン山前の委員を務めていただいている。そのため、頻繁に会議を開催することが難しい。

#### (3) 今後

介護サービス事業所等の委員の増員を予定している。今後は、介護サービス事業所等を核とした地域活動の展開等も検討したい。

